

# 生涯スポーツの普及を通じた 新たな国際協力への取り組み

公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター（HIECC）交流・協力部主任 金子 徳之

## 韓国における急速な高齢化の進展

韓国では近年、わが国以上の急速な高齢化が社会問題となっており、高齢化率（65歳以上が総人口に占める割合）は2010年に11.3%でしたが、2020年には15.6%、2030年には24.3%（統計庁「2010高齢者統計」調べ）と予想されていることから、高齢者の地域との関わりや社会参加のあり方などが今後の課題となっています。

## 北海道発祥の生涯スポーツ

北海道は、国内でも高齢化率が比較的高いことなどもあり、地域が主体となって、高齢者向けのローカルスポーツを創出してきた事例があります。例えば1982年に幕別町で生まれたパークゴルフはゴルフと同じルールで楽しめる「高齢者の健康スポーツ」として今や日本全国に普及し、競技人口130万人以上といわれるまでに成長しています。また、1972年に大樹町で生まれたミニバレーは、高齢者から若者まで、それぞれの体力に合わせて楽しめるチームスポーツとして愛好者の輪が広がっており、バドミントン用ネットと支柱があればすぐに活動できる手軽な屋内スポーツとして、道内はもとより、ロシアをはじめ海外でも多くの競技者が増加しています。いずれも「老若男女が楽しめる」生涯スポーツとして、シニア世代の生活の質（QOL）の向上や健康寿命の延伸、さらには高齢者の積極的な社会参加やまちづくりの手法として注目されています。

## 韓国側とのマッチング（慶尚南道）

これら北海道発祥の生涯スポーツを韓国に紹介し、急激に進展する高齢社会に対応したまちづくりに貢献するため、昨年9月の現地リサーチを経

て、11月13日から16日の日程で、高橋了北海道国際交流・協力総合センター副会長兼専務理事を団長とし、公益社団法人日本パークゴルフ協会、北海道ミニバレー協会の役職員計7人で訪問団を構成し、北海道と友好提携関係のある釜山広域市、慶尚南道、ソウル特別市の3地域を訪れ、普及活動を行いました。特に慶尚南道では、生活体育全般を所管している慶尚南道生活体育会（会長クン・デホ）をカウンターパートとして、実技を通じ指導を行いました。

パークゴルフの指導は、昌原市内の体育公園内にあるパークゴルフ場で行いました。韓国では近年パークゴルフが普及しつつあり、パークゴルフ連合会も組織されていることから、慶尚南道パークゴルフ連合会の職員や会員約20人に集まっていただき、高齢者が気軽に楽しめるパークゴルフの特性等を説明するとともに、実際に参加者全員でコースを回りながら、コースづくりの手法やプレー時のフォーム改善の指導等を行いました。ミニバレー指導は昌原市内の小学校体育館にバドミントンネットを設置して、慶尚南道バレーボール連合会や、地域のママさんバレー愛好家など約20人を対象に行いました。韓国ではミニバレーは



慶尚南道のパークゴルフ場でホール間の距離の取り方などアドバイス

見るのも聞くのも初めての競技ということで、最初に北海道ミニバレー協会からDVDにより一通りルールを説明した後、実際に試合形式で行いました。空気を膨らませただけのビニール製の軽いボールのため、コントロールすることが困難ではじめは全員が苦戦していましたが、すぐに慣れると、実戦さながらの試合となりました。途中、小学生のバレーボールチームも加わり、一緒に楽しくプレーし、同クラブの監督からは「子どもの集中力を養うためにも良い」、「バレーボールのウォームアップに適している」など、さまざまな観点から興味を示していただきました。

## 釜山広域市、ソウル特別市での普及活動

釜山広域市では、釜山広域市国際交流財団を訪問し、両スポーツの競技を紹介するとともに、その効果についての説明を行いました。同財団は、釜山広域市における中核的国際交流団体であり、地域国際化協会である当センターと位置づけが似ていることから、すぐに本事業の趣旨を理解していただき、今後の連携について、関係団体やスポーツ健康学に関する大学教授との橋渡しなど約束をいただきました。

また、ソウル特別市ではソウル特別市生活体育会の本部を訪問し、同市のパークゴルフ連合会やバレーボール連合会の役職員にも出席をいただき、両スポーツの紹介や意見交換を目的としたスポーツセミナーを行いました。日本パークゴルフ協会からはパークゴルフがもたらす地域の経済効果について、「大会運営による地元宿泊、食事、交通などで一定の効果を地域にもたらしている」との紹介がなされ、韓国側から大変反響がありました。ソウル広域市パークゴルフ連合会はまだ設立して間もないことから会員数も少なく運営資金の調達に苦慮しているとのことで、大会運営のノウハウをはじめ効率的な資金調達方法に関心が示されました。またミニバレーは、スポーツの紹介とともにDVDと写真を見せながら生涯スポーツとしての優れた特性についての説明がなされ、韓国での普及拡大についての方策や、教育的な観点



ソウル特別市生活体育会にて（写真左から4人目が高橋了HIECC副会長、左から3人目がハン・テリョン生活体育会事務処長）

からのアプローチの方法などについて具体的な意見交換が行われました。

## 今後の取り組みに向けて

対象とした韓国3地域と北海道とは姉妹友好関係にあることから、いずれも円滑に事業を実施することができました。従来、国際協力とは、開発途上国を対象としたものでしたが、今回このように国際交流関係を基盤とした地域の課題解決に向けた技術貢献への取り組みは、今後の国際協力事業の新しいモデルになりうるものと思います。

特に慶尚南道からは、2013年度には北海道の幕別町や大樹町といった、両スポーツの発祥地を訪問し、パークゴルフやミニバレーの普及方法や住民との関わりなどを実際に学びたいという要望もあがったことから、2012年度に引き続き自治体国際化協会より自治体国際協力促進（モデル）事業として助成を受け、継続して両スポーツの普及に取り組んでいくこととしています。

また、ソウル特別市や慶尚南道のパークゴルフ連合会からは、本年6月に幕別町で開催予定の国際大会への参加希望が表明されるとともに、ミニバレーについては、慶尚南道関係者から、ぜひ慶尚南道を韓国でのミニバレー発祥の地としたいとの意向が語られるなど、団体や自治体同士の交流の広がりも生まれてきています。当センターとしても、こうした協力関係が持続され、深まってくよう、今後とも支援を行っていきたいと考えています。